

2016年7月15日  
国境なき医師団 (MSF)

### ギリシャ：高価なワクチンが難民児童の予防接種の障壁に

国境なき医師団 (MSF) は、中東などからの難民が滞在するギリシャ国内の複数の難民キャンプなどで、子どもを対象にワクチン接種活動を行っている。この数週間で接種を行ったのは、生後半年から 15 歳の合計 5000 人以上。ワクチンの対象は 10 の疾患だが、そのひとつである肺炎は今も世界の 5 歳未満児の単独の死因として最も多く、危機的状況を生きる子どもには特に脅威となっている。しかし肺炎球菌 (※) ワクチン (PCV) には、各国政府や NGO に法外な価格が課されており、MSF は価格の引き下げを要請しているが実現に至っていない。

※重症肺炎を引き起こす菌の一種

#### 世界最低価格の 20 倍

MSF は、緊急事態に携わる各国政府と人道援助団体向けに PCV を値下げするよう、肺炎ワクチン生産者であるファイザーとグラクソ・スミスクライン (GSK) の 2 社に求めてきた。子ども 1 人の予防を完了するには、3 回の PCV の接種が求められる。今回ギリシャでは、接種 1 回分あたり 60 ユーロ (約 6900 円) の価格で国内の薬局から購入したが、これは世界最低価格である接種 1 回分あたり約 2.80 ユーロ (約 320 円) の 20 倍に及ぶ。

肺炎ワクチンの世界最低価格が適用されるのは、Gavi—ワクチン同盟を介した世界最貧国への販売のみ。ギリシャでは、難民など窮地に置かれた子どもたちへの接種を行っていないながら、MSF を含めた人道援助団体は最低流通価格でのワクチン調達ができない。

また今回の集団予防接種で MSF が用いたワクチンのうち、PCV に加え 6 種混合ワクチンも法外な価格となっており、接種 1 回分あたり約 65 ユーロ (約 7500 円) に設定されている。

#### 製薬企業は価格引下げを拒否

MSF ギリシャの医療活動支援ユニットディレクター、アポストロス・ヴェイジス医師は、現代でも最大級の危機を生きる子どもたちを守る手立てが必要であり、ファイザー社と GSK 社は肺炎ワクチンの価格を引き下げべきだと話す。「シリア、イラク、アフガニスタンでは保健医療システムが崩壊し、避難キャンプの内外で暮らす子どもたちの大部分が自国や避難の途中で予防接種を受けられずにいます。そうした子どもたちの生活環境はとてひどく、生き延びるための避難で健康が損なわれるべきではありません。子どもたちを肺炎などの致命的な病気から、何としても守らなければならないのです」

MSF は危機に見舞われた子どもたちを肺炎から守るため、ファイザー社および GSK 社との価格引き下げ交渉を 6 年以上にわたり試みてきた。これまでのところどちらの企業も価格引下げを拒否しており、危機の中で暮らす人びとを守るための解決策は見出せていない。

MSF は 2016 年 5 月、危機に見舞われた人びとと全ての開発途上国を対象に、子ども 1 人あたり 5 米ドル（約 520 円／全 3 回接種）まで価格を引き下げよう求めた、170 カ国 41 万 6000 人以上の署名をファイザー社に手渡している。

MSF は 5 月、ギリシャ・マケドニア共和国の国境沿いに位置するイドメニで 3000 人の子どもにワクチンを接種し、その後、ギリシャ本土のアッティカ地方の複数のキャンプ、サモス島、首都アテネへ展開。さらに今後何週かは、保健省と連携し、イピロスとレスボス島のキャンプの子どもたちにワクチン接種を行う。

以上

---

**本件に関するお問い合わせ先：**

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: [press@tokyo.msf.org](mailto:press@tokyo.msf.org) <http://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ\_Press